

〔長久手町業務評価票：平成 18 年度業務〕

課係NO・業務NO	- .	総合計画	3 - (4) -	高齢者福祉
担当課・係名	福祉課 福祉係【問合せ・質問等の先(内線番号)			番】

業務の名称	高齢者福祉事業				
(1)根拠法令・条例	緊急通報システム事業要綱、寝具洗濯乾燥サービス事業要綱、高齢者等家具転倒防止事業要綱、高齢者住宅改修事業要綱、高齢者防犯対策事業要綱、高齢者文化施設優待事業要綱、「食」の事業要綱、温泉宅配事業要綱、紙おむつ助成金支給事業要綱				
(2)当該業務量 (延人員規模含む)	総業務量の <u>15</u> % (係の総業務量を 100%とする) 職員延人数： <u>277</u> 人・日 (臨時雇用者延人数： <u> </u> 人・日)				
(3)事業費 (人件費分を除く)	<u>26,820</u> 千円(平成18年度決算(細目・細々目の実績から抽出・算定する))				
(4)補助率(補助金がある場合のみ記載)	<u>0.04</u> %(平成18年度実績) 高齢者等家具転倒防止事業：県補助金10,000円				
(5)業務期間	開始した年度	年度	終了(予定)年度	年度	
(6)業務の概要(簡潔に箇条書きで記載)					
業務目的(達成目標)	日常生活に支障がある、または防災・防犯等に不安がある在宅のひとり暮らし高齢者、後期高齢者世帯等への支援を行い、日常生活の安定と不安を解消できるようにする。また、閉じこもり防止として外出の楽しみを作る。				
業務が対象とする住民(地域、層)	ひとり暮らし高齢者(65歳以上)、後期高齢者(75歳以上)世帯等				
業務の具体的な実施内容・方法 (平成18年度実績)	寝具洗濯や住居バリアフリーへの改修補助など日常生活支援を始め、緊急時の通報システム設置、家具転倒防止器具取り付け、センサーライト設置などを実施する。また、外出の目的設定をするため文化施設へ優待する。				
業務の実施結果 (平成18年度実績)	高齢者実態把握調査などの結果から支援が必要と思われる高齢者に事業の案内を行うなどして、要支援者の発掘・利用へ結びつけた。				
	【業務結果の説明指標】				
	結果の説明指標	17年度実績	18年度実績	19年度目標	将来目標
	1 寝具洗濯乾燥サービス事業	26人	30人	30人	35人
	2 緊急通報システム事業	89人	124人	124人	130人
	3 高齢者住宅改修事業	9人	15人	15人	15人
	4 高齢者等家具転倒防止事業	11人	13人	13人	15人
	5 高齢者文化施設優待事業	565人	729人	729人	740人
業務の成果(業務目的の達成状況) (平成18年度実績)	高齢者それぞれのニーズに合った日常生活支援及び安心の確保等につき実施することができた。				
	【業務成果の説明指標：基本計画準拠】				
	成果の説明指標	17年度実績	18年度実績	19年度目標	将来目標
	1 寝具洗濯乾燥サービス事業	26人	30人	30人	35人
	2 緊急通報システム事業	89人	124人	124人	130人
	3 高齢者住宅改修事業	9人	15人	15人	15人
	4 高齢者等家具転倒防止事業	11人	13人	13人	15人
	5 高齢者文化施設優待事業	565人	729人	729人	740人

(7)遂行上の問題点、取組課題（箇条書きで簡潔に記載）
高齢者（全戸配布している広報や福祉のしおりを見ない方が多い）に対する利用促進を図るため、周知方法等を検討する。

(8)改善実績（過去3年間の実績）
高齢者文化施設優待事業について、利用者は毎年役場へ入館券を取りに来ていたが、入館券の配布を止め、利用時に、施設が「優待カード」へ押印することで入館できる方法に改善した。

(9)業務の評価（自己診断）		
評価基準	評価の視点	五段階評価 (5～1点)
目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	3点
コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	3点
業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	3点
住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	3点
総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	3点
他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	4点
		平均 3.2点

(10)総合評価（課の見解）	
今後の方向 (該当番号に○印)	<ol style="list-style-type: none"> ① 前年度と同じく、そのまま継続する。 2. 見直して継続（業務の拡大） 3. 見直して継続（業務の縮小） 4. 見直して継続（方法の改善） 5. 見直して継続（他業務と統合） 6. 廃止する。 7. 休止する。
評価理由	高齢化率が比較的低い長久手町ではあるが、加速する高齢化に伴い、多くの高齢者が在宅での生活を維持できるように支援していくことは非常に重要であるため。

(11)今後の目標・改善方針（具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること）
高齢者関係機関への会議出席や民生委員からの要支援者の情報収集などから、必要に応じたサービス提供を行えるようにする。